

平成20年度第1回山形県立図書館協議会議事録要旨

平成20年6月24日（火）

13:30 ～ 15:05

「遊学館」3階 第2研修室

出席者

・協議会委員

水戸部委員、佐多委員、大江委員、孫委員、沼野委員

- ・県立図書館 三澤館長、高橋副館長、佐藤主幹、津川主幹、山中資料管理専門員、小野寺資料整備専門員、深瀬運営企画専門員、高橋調査相談専門員、鎌戸総務専門員
- ・県教育庁教育やまがた振興課
佐藤生涯学習主幹、歌丸生涯学習主査

6 協 議

○ 事務局

議長は、慣例によりまして舩田委員長にお願いしておりますが、本日欠席のため議長につきましては、先程水戸部委員からもお話がありましたとおり大江委員にお願いしたいと思っておりますがいかがでしょうか。

委員一同 賛成

それでは、大江委員に議長をお願いいたします。

○ 議長

不慣れですが何とか務めたいと思いますのでどうぞよろしくお願ひします。
それでは早速ですが、傍聴者の確認について事務局にお願いいたします。

○ 事務局

本日は、傍聴希望者は、ございません。

○ 議長

それでは、協議に入ります。最初に議題が3件ございますので、議題1の「平成19年度県立図書館運営の実績について」事務局より一括して説明願ひします。

○ 事務局

平成19年度県立図書館運営の実績について (1)「所蔵資料について」、(2)「利用状況について」、(3)「企画展示等実施状況について」 (4)インターネット予約システム運用状況について」 説明。

○ 議長

はい、ありがとうございました。ただ今、平成19年度の前年度の実績について1番から4番まで一括して御報告いただいた訳ですが、それに関しまして何か御意見、御質問をお願いしたいと思います。何でも結構です、いかがでしょうか。

○ 孫 委員

インターネットの予約というのは登録制ですか、カウンターに来て登録してから利用ということになるのでしょうか。

○ 事務局

県立図書館に来館して登録する方以外は、郵送で申し込みをしていただきます。基本的に県立図書館の利用カードを持っていらっしゃる方で、持っていない場合は改めて登録していただいて、インターネットはメールアドレスをお持ちの方、中学生以上という条件です。申込みをする時には、申込書の外に免許証等の写しを同封していただきまして登録していただく。その後登録者にはパスワードを送り、それで始めてインターネット予約ができるという形になります。

○ 議長

よろしいでしょうか。ほかにございませんでしょうか。

○ 水戸部委員

ページの6で、 図書館職員が本の紹介に手紙を作成し、展示するとありますね。これは初めての試みなのでしょうか。

また反応はいかがでしたか、簡単な質問ですけど。

○ 議長

企画展の一番最初ですね。

○ 水戸部委員

企画展の一番目の春の企画展の「こころを届ける手紙展」です。図書館職員自らご本を紹介されるということでしょうか。

○ 事務局

企画展で、こういった形でディスプレイするか色々考えまして、ただ単に本を展示紹介するだけでなく、当時担当した職員が、今まで感動した本とか、様々な思い出のある本などで、是非読んでほしい本を手紙に書いて紹介したらどうかということになりました。手紙は、職員全員から書いてもらい、展示場所の一角に貼り付けておいたところです。

例えば、「お父さんへのおすすめ本」という手紙のタイトルの場合、何入っているのかなということで見ると、父の日に関連する本の紹介とメッセージなんか出てきて、この本おもしろそうだなということでも本を借りるということでも、「心を届ける手紙」ということがテーマであったものですから、そういった事を通じて本に繋げていくということでも展示をしてみたところです。

○ 事務局

反応ということでしたので、ひとつ追加します。今年の話で申し訳ありません。22ページ、23ページをご覧になって頂けますでしょうか。22ページに一般的なテーマ別展示を記載しているのですが、一番目に「食育」、6月6日から28日まで行っております。最初、450冊展示したのですが、貸し出しが215冊、約半分がそこから貸し出しされました。次のページ、児童向けの「科学の本」というのを今行っています。これも当初90冊展示して40冊貸し出し、また40冊以上プラスして、現在までに146冊展示したのですが、その内65冊が貸し出しされている。ということで来館者が非常に興味を持って見ていらっしゃるのかなあと考えております。

テーマ別展示のことをお話しましたが、水戸部委員が言われた春の展示と秋の展示については、貸し出しておりませんが、春の展示と秋の展示にも相通ずるものがあるのかなと、思っているところでございます。

○ 水戸部委員

これはなかなか良い発案というのか、意思が届いて、気になる人も違った感覚で読む可能性があるのではと思う。これからも、未知の読者を。例えばですね、郷土出版物を今後整理したい・揃えたいという館長さんの話がありましたけど、資料で収集したい意向はそれぞれにありましようが、今回山形県の話が出ましたように、たとえば、出羽ヶ嶽さんの手の拓本があれば、こんなでっかい手をしてたんですよ、こんな足をしてたんですよ、できたらその中に出羽ヶ嶽さんの書いた直筆の手紙とか字とかね、そういうものが在ると、ものすごく共感を呼び、関心をそそられるんですよ。プロフィールを紹介するだけで、その人の実態をつかめそうな、ちょっと身近な感じがしますよね。竹下夢二というのは、酒田に来て、逗留して、絵を描いたという話がありますが、秋田から流れてきて、南の方に下がってきて、秋田では山田順子、普通はゆきこと言うんですが、徳田秋聲の時の愛人だったと言われていた文庫本シリーズにもあります。彼女をモデルにした竹下夢二の絵はどこにあるんだろう、いろいろと徳田側も探していたらしい。そしたら、郷土資料学者て言うんでしょうか、そういう人たちがデッサンを探し、それを図書館にもちより寄贈してもらったんですよ。資料とは、そういう縁があるんですよね、竹下

夢二が秋田にきて山田順子をどのようにして描かれたのでしょうか。そういうなんか図書だけでない実態が見えてくるような、そういう点でもこれからの資料が必要じゃないかなと言う気がするんです。ましてこれから、郷土史を重ねるとき、実像みたいなことがないと具体的なイメージがわからない、と、思うわけですよ、単なる活字だけでは動かないところに、形になる、なるように整理するのにいいんじゃないかなと思います。以上です。

○ 議長

すばらしい御意見をいただきましてこれからの図書館の便宜に役立っていくのかなと思います。それでは佐多議員からなにか御意見をお願いします。

○ 佐多委員

3ページと4ページ、蔵書数と個人貸出数との関係を見てたんですが、一番上の文学がやっぱり貸出が多い、その後に、視聴覚資料は別にすると社会科学が次、というのは分かるのですが、その次にやっぱり児童ものが貸し出し数としては多いですね。その割合にしては本の蔵書数が少ないかなという気がします。多分これから子供の本、蔵書数というか、子供の読書推進という観点からすると、これから増えてくるのかなという期待を込めてみていたんですが、やっぱりこの数が多いというのは、親御さんが借りていた数が多いのかな、子ども自身が来て借りるというより親御さんが来て借りている本だから、あんまり子ども自身の要求というと、ちょっと反映されていないのかなあという気がしましたが、その辺はどうなんですか。

○ 議長

それでは、お願いします。

○ 事務局

26ページの説明のときにしようと思ったのですが、県立図書館全体の蔵書に占める児童書の割合は4パーセントですが、児童書の貸出冊数は、全体貸出冊数の13パーセントを占めております。というのは、先ほどおっしゃったように、子どもだけでなく、13パーセントというのは、お母さんが読み聞かせのために本を借りていくということを含めて、4パーセントの蔵書冊数で、13パーセントの貸出しをしているということは、回転率でいいますと、非常に効率的な貸出に寄与しているということが子どもの図書では言えるかもしれませんね。そういう意味では、市町村と違う意味で、少ない冊数で有効に、貸出冊数を回転させながら多くの方に貸し出されているというのが、蔵書数と冊数を比較するとそういう関係になりなす。

○ 議長

よろしいでしょうか、それでは、ほかに何かございませんか、何でも結構です。19年度の調査相談の分類状況の中で、郷土に関する相談がかなり多いので、どういう現象

なんですか。5ページの一番下、19年度調査相談分類別状況ですね。世界遺産との関わりかなんか知る人と思ったんですけど。

○ 事務局

館内利用者は色んな分野の相談をしてこられますが、県外の方の場合は、ファックスとか手紙で相談依頼がきます。また、ホームページの中から相談コーナーに入って相談依頼ができるんですが、原則として、県外の方には山形県に関することについてのみ調査相談を受けております。各県の郷土に関する資料については、それぞれの県が一番充実した資料をもっていますので、他県でも同様の考えで、相談受付をしている所が多いようです。

そういった関係で、自然と郷土に関する相談が増えてくる原因かなと思っているところです。

○ 議長

はい、ありがとうございます。いろいろ御意見いただきましたが、ほかに何かございますか。

○ 孫委員

年齢別の利用状況の冊数がありますが、男女別は取っていらっしゃいますか。インターネットで分かれば、利用者状況を。

○ 事務局

インターネット予約の利用者は、予約資料をどこで受け取り、どこに返却するかを選ぶことができます。たとえば山形市内にお住まいの方は、直接県立図書館に来館し、予約資料を受け取り、返却できますが、酒田市や鶴岡市のように遠方にお住まいの方で、直接来館することの困難な方は、最寄の市町村図書館（室）で受け取り・返却することができます。県立図書館で受け取る人と最寄の市町村図書館（室）で受け取る人の割合は半々です。

さて、インターネットによる予約の男女別貸出数についてですが、直接県立図書館への来館によって受け取った場合は、統計上、一般の貸出冊数に含まれてしまいますので、その男女別内訳は把握できませんが、最寄の市町村図書館（室）で受け取った場合は、その貸出冊数を抽出でき、男女別にみると、その差はほとんどありません。このことから、インターネットによる予約の男女別貸出数は全体的にもその差はあまりないと予想されます。

○ 孫委員

例えは悪いんですが、若い層は女性が多くて、年取ってくると男性層が多くなることについてご説明をお願いします。

○ 事務局

それは、利用者満足度調査ではそういう結果でした。ただし、インターネットではどうなのかはもう一回調べてみなければ分かりませんが、そういう傾向があるんじゃないかなと考えますが、そこは確認してみないとなんともいえません。

○ 孫委員

ありがとうございます。

○ 議長

そのほかに、何かありませんか。それでは、一応時間的に3時頃までということもありますので、後でまた、前の方に戻って質問があるばあいは受け付けたいと思いますので、議題の1については、この辺にしたいと思います。

それでは、次の議題2平成20年度県立図書館運営方針及び予算について、事務局より一括して説明をおねがいします。

○ 事務局

平成20年度県立図書館運営方針及び予算について

- (1)「運営方針について」、(2)「組織体制について」、(3)「予算について」
(4)「企画展示等実施計画について」、(5)「子どもの読書活動推進支援について」
説明

○ 議長

それでは、平成20年度県立図書館運営方針及び予算について、(1)から(5)までについて、意見をお伺いしたいと思います。

○ 沼野委員

平成20年度の運営方針のお答えについて、2行目の「市町村立図書館との連携を一層強化しながら」と明記されておりますが、この件について。県立図書館で行われている企画展やテーマ別展示について、それぞれ市町村の図書館の独立性や自立性が十分確保されていて、独自に展開しているとは思いますが、県立図書館と連携するなど、関連性を持って、1つか2つかでも、出来るのであれば、テーマ性で連携して一緒にやるという方法はどんなものでしょうかというのが1つ。2つ目に、前回の委員会で申しあげましたレファレンスに関する機能の充実について、平成20年に十分に考慮した体制や、考え方が採られているということがとってもうれしく思いました。それから、3つ目といたしまして、国や県の働きに市町村の図書館関係が、ボランティアやNPOの活動が大変活発になってきておりまして、私の住んでいるところでも図書館の一部業務をNPOが請負受託するという実例がでており、来年度から指定管理の制度を導入するということまで至っております。そのような事情をみながら県内での運用状況がどうなっているかということも教えていただければと思っています。

○ 議長

いま3点、質問がありましたが、よろしくをお願いします。

○ 事務局

1番目のテーマ別とか、企画での市町村との連携というご質問だともおもいますが、世界遺産関係につきましては、或る時期を区切って、一緒にそのテーマを県立だけでなく市町村の方でも行っているところもございます。あとは「春の子どもの読書週間」でその期間につきましては、全国統一なんですけど、県立だけでなく、国から読書週間という期間について市町村でも取り組まれているというようなことだと思います。一番目については以上でございます。

2番目は、レファレンス機能のことについてですが、レファレンスは、なかなか充実していいことではないかとお話だったものですから、その言葉に対してありがとうございますという感謝と併せて、これからもレファレンス機能を充実してまいりたいと思いますので、よろしくお願いたします。

○ 事務局

県内市町村立図書館での指定管理者導入は現在3館、天童市立、河北町立、川西町立で行っております。県立図書館でも施設設備の維持管理については、指定管理者制度を導入しております。それから、導入を検討しているところは、いまのところ3つぐらいあるようです。年度を区切って、一応目安をつけながら検討をしているようでございます。

○ 沼野委員

さきほどの説明ですと、企画展やテーマ別展示の中で、本を展示すると貸出冊数も増加に結びつくというお話でした。その報告のあり方ですけど、例えば、これに追加して何冊ぐらい展示なさったとか、その後の貸出日数がどうだったのかとか、分からないのかなと思って19年度質問しなかったのですが、説明の随所にきちっと数値を把握しているらっしゃるので、今後入れていただければよろしいと思います。

○ 議長

いま分かるのであれば。

○ 事務局

それでは、19年度の実施状況について説明申し上げたいと思います。冊数でよろしいでしょうか、6ページの企画展ですが、まず、「こころを届ける手紙展」は、408冊。「秋の読書週間」は、1108冊。「大熊信行没後30年記念展」は、図書だけでなく資料を含め158点というかたちで把握しております。次のページからは貸出の方もございますのであわせて、テーマ別展示の「子育て支援」は展示375冊、内貸出137冊。次は、「阿部六郎没後50周年記念」は、展示は64冊、貸出2冊。これは特別なものですので、貸出は少ししかありませんでした。「闘病記」396冊展示、85冊貸出。「防災週間によせて」357冊

展示、50冊貸出。「敬老の日おすすめ本」展示417冊、貸出336冊。「11月はこんな月」は展示79冊、貸出51冊。「障害者週間によせて」は、展示380冊、貸出102冊。「1月はこんな月」は、展示132冊、貸出73冊。「世界遺産登録をめざして」は、展示267冊、貸出は27冊。「2007年文学賞受賞作品展」及び「若い人に贈る本」は展示280冊、貸出195冊になっています。次は児童関係のほうですが、「6月の絵本」の展示は166冊、貸出85冊。「7月の絵本」の展示は197冊、貸出122冊。8月の「夏休みに向けた特集」の展示は202冊、貸出し95冊。「9月の絵本」の展示は152冊、貸出103冊。「10月の絵本」は、229冊が展示で、貸出148冊です。「12月の絵本」は、展示187冊、貸出115冊。「1月の絵本」は、展示164冊、貸出75冊。「2月の絵本」は、展示160冊、貸出114冊。他にイベント事業に伴う展示は、おおよそ1回につき、100冊から200冊というところです。来年度は、これらの事業の結果について、冊数等の数字を書かせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○ 議長

ほかに、時間ですが特に聞いておきたいという方は。

○ 佐多委員

一つ気になったことは、20ページの資料整備費がマイナス100パーセントですね。

○ 事務局

内容は、資料整備をするに当って人を雇った経費です。これは無いということです。

○ 佐多委員

もう一つ、子どもの読書週間に関する基本的な計画なんですけど、これは事業方針なので、変えることは無いかなとおもうんですが、読書と、その子どもの読解力をいつも一緒にするというのは、これはほんとに読書なのかな、楽しみに繋がるんだろうか、いつも考える疑問点なんです。どうも本を読みなさいというのが国語の勉強になるよとか、読解力が上がるよとかそういうことを言われていくと、子どもにとって本を読むことは楽しくなくなっちゃうという気がします。昔 読書感想文コンクールがあって、本を読みなさい、感想文を書きなさいと言われるのが本当にイヤだったんですよね、そういう何か勉強的なことと繋ぎ合わせて読書を、本を読むことを推進されるとなんか子どもにとっては楽しみではなくなってくるじゃないかって。正直いうと全校一斉読書活動をされると、私は、すごくいやだと言う気がするんですよね、これは無いよりあった方がいいんですけど、一斉に本を読みましようといわれると、好きなときに読みたいと思うんです。そういうふうに子どもが本を読むということが、なんか教科的なことと結びつくと楽しみではなくなっちゃうと思うんです。どうしても、学校でやられると、なんかこう評価される部分に追随していくところがあって、ここ図書館で言っても仕方ないのかもしれないんだけど、そこらへん、あくまでも子どもにとって読書というのは、本を読む楽しさであって、勉強的なことに結び付けられない活動で進めていただければと思いま

した。今年の春の読書週間に図書館でとりあげられた子どもの本ですか、すごく面白かったんですね私としては。図書館で作成したこういう冊子も頂いて、非常に立派なものが出てて、これも見たんですけどとっても良い企画をされていると思いました。

○ 議長

ありがとうございました、ほかにありませんか。それでは、一言ずつ言って終わりにしたいと思います。

○ 孫委員

25ページの子どもの読書活動ですが、今の図書館活動について考えたんですけど、現時点で考えられる今後の事業例のところ、子どもに本の楽しみを分かってもらいたいのであるならば、ブックスタートについての支援があるべきだと思うんですね。23ページの子育て応援団でも、ブックスタートについての話はありませんでした。そこで、今後はブックスタートを支援するために、県立図書館が県内の公共図書館に対してブックスタートについて協力しているのか、もしくは実施しているのかを、把握すべきではないかと思います。

○ 議長

御意見として伺っておきます。はい次お伺いします。

○ 水戸部委員

佐多先生が活動してこられて、実績を踏まえたご意見と受け止めましたけれど、本の楽しさをどのように聞かそうという話のうまさみたいなものを、朗読者によって介在度が大きい。そういうことに関わり私は関心があります。ある幼稚園の報告で調べたら本を読み聞かせた後、人の話をよく聞くようになったと園長先生の報告があったんですね。これはやっぱり本だけじゃなくって、社会的な関心を幼児に持たせるべきだなと取材して思ったんですけども。ここの中で110読み聞かせ団体が活発に活動しているのがあるんですね。昔で言ったら44の市町村なわけですよ、44区域をはるかに超えているわけですから地域差っていうのはどうなっているのか。もう一つ、鶴岡市の大変名誉ある学校図書館を伺いたく、具体的にどういう活動かを分かる範囲内で教えていただきたい。

○ 議長

二つ、今質問がありました。読み聞かせの地域差ですね、一つ目は。二つ目は鶴岡市の学校の状況を、分かる範囲内で結構です。よろしくお願いします。

○ 事務局

例えば、110の内一番多いと思われるのは山形市立図書館です。この時点で15団体が活動しておりました。寒河江は7団体、鶴岡は8団体、村山は4団体、10団体以上は山形だけ、

天童は5団体、そんな感じで、少ないところは1団体しかないところ、戸沢村、鮭川村そういったところがございますけど、そういった地域において、やっぱり人口が多いところが大体多いのかと思います。鶴岡市の学校の状況ですが、図書館活用教育とっておりますけど、学校図書館を子どもたちに読み聞かせとか、あるいは調べ学習とか総合学習で使うにしても、図書館を学校の中で、いわゆる学校全体で使うっていうか、単に個々の一教師が頑張ってるということではなくて、学校全体として取り組むんだという学校の方針があって、そこまで五十嵐さんっていう人が図書館の司書の方でしたけど、そこまで学校として取り組ませるまでのさまざまな動きがあったんだろうと思いますけど、評価されているのはそういうことだろうと思います。

○ 議長

よろしいでしょうか。本当は3時に終わる予定でしたけど、活発な意見が出ました。最後、いろんな、何かに結び付けてって言う形ではなくて、私たちがどうやって子どもたちに啓発を与えながら自ら読みたくなる、させる、私、学校現場におりますけれどおんなじですよ、勉強も。大学受験のため勉強とかね、はい何のためこれをするのかとか、そういうところが本質的なんですけど、そこが一番難しいところだと思いますので。各協議委員の先生方にはこの場でなくともいろんな形で、電話でも何でも結構ですので図書館の方にいろんな意見をお寄せいただければ、そのへんを参考にしながらこの図書館のいろんな運営に活かしていただければありがたいと思います。どうかよろしくお願いします。それで、その他の議題はあるでしょうか、ありませんね。

以上をもちまして本日の協議は終わらせていただきます。ありがとうございました。

○ 事務局

報告事項「第28回山形県図書館研究大会」について報告。

本日は、これもちまして閉会とさせていただきます。ありがとうございました。